

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700361	事業の開始年月日	平成26年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 おんだ		
所在地	( 227-0062 ) 横浜市青葉区恩田町3114番地1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年11月11日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月21日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の意志を尊重し、共同生活生活のルールの中で可能な限り本人の要望を答え穏やかに安心して安全に生活が出来るよう支援しています。  
また、レクリエーションや外出の時間を出来るだけ設け、皆さんが毎日変化のある生活を送る為、行事等を積極的に実施しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年1月23日	評価機関 評価決定日	平成29年3月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜高速鉄道こどもの国線「恩田駅」より徒歩13分、または、東急田園都市線青葉台駅よりバスで、バス停「苗万坂」下車2分のバス通り沿いにあります。住宅や会社、田や畑、背後は山林で田園風景が残っています。事業所の運営は、グループホームや訪問看護などの多くの福祉事業を展開している株式会社が行っています。

<優れている点>

事業所名の「花」は利用者が主人公となって自分らしい生活を送ってもらいたいとの願いが込められており、随所に環境づくりの配慮がされています。エントランスホールは、観葉植物や植木、熱帯魚が泳ぐ水槽などが置いてあり、アメニティ豊かです。庭が広く花や野菜を植えています。利用者も収穫した野菜は、食材として使用しています。庭のベランダや広い駐車場を使用して、行事や外気浴を行い、利用者の気分転換を図っています。リビングは自然の採光で明るく広く、利用者がゆったりとソファやテーブル席に集い、くつろげる環境です。ボランティアによる演奏で音楽に合わせて賑やかにかっぽれや炭坑節を一緒に踊り、利用者が楽しめる環境作りをしています。

<工夫点>

全国のご当地名物の料理を毎月1回、昼食に提供し、食事に変化をもたせています。料理名やご当地名などを説明書きした三角プレート各テーブルに置いて、紹介しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 おんだ
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	地域と一緒に施設作りを考えるために、地域の考え等を踏まえ、また施設理念を踏まえたうえで、「その人らしく生きる」「意志を尊重し」「あたたかい心を持ち接する」この様な考えを常に持ち、実践に繋げています。	理念は開所時に職員で作ったもので、玄関に掲示しています。一人ひとりが主人公となる「花物語」の思いに、基本理念と5つの目標を定めています。職員はミーティングなどで理解を深め、利用者がその人らしく笑顔ある生活ができる支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	恩田自治会主催や包括主催の行事（どんど焼き・盆踊り等）に参加しています。	自治会に加入しており、役員会に誘われています。どんど焼きに出かけたり、ボランティアと一緒に踊ったり歌ったりして、生活を楽しんでいます。道路を挟んだ向かいの会社から「昼間は職員がいるので、何でも相談に乗るよ。」とされています。	ボランティアの受け入れを歓迎しています。今後とも利用者が楽しみ、地域と交流を深めるため、ボランティアの充実が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オープン当初は、施設見学会・健康祭りを、地域住民を招き交流をして来ましたが、その後は開催はしていません。今後に関しては、地域を招いての行事を考えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむ2ヶ月に一度開催し、利用者の状況・事故状況・行事等を報告しています。報告後、家族・包括・自治会長等より意見を頂きサービス	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。利用者の状況や日常発生する事故の様子、ヒヤリハット事例、職員の退職と新職員などを説明し、事業所運営の相互理解に努めています。庭の利用方法を話し合い、また外部評価結果なども報告事項としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括の職員・自治会長・民生の方々に関しては運営推進会議に参加して頂き、常に情報を共有し意見交換を行っています。	区役所とは日常から介護認定関係での交流があります。生活保護者の入居は行っていません。年に1回、制度の改正などが情報提供される連絡会があります。地域包括支援センターとは運営推進会議出席のほか、普段から介護情報の紹介や意見交換を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設理念で唱えているように、個人を尊重し尊厳が保たれよう生活をされています。事業所所内で研修も行っています。施錠に関しては、今までは事務所内に職員が居る時は、玄関の施錠はしてなかったのですが、先般の障害者施設の殺傷事件より施錠を行なっています。	身体拘束をしない研修や接遇研修などを年度計画に盛り込んで実施しています。玄関やユニットのドアは施錠していますが、利用者の外出希望には声掛けし、他のフロアや庭で話したり、一緒に外出したりしています。警察官が巡回で立ち寄る時は利用者の様子を話し、顔の見える関係としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しては、日々のミーティングで虐待防止の事を伝えています。また研修も行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては、年1回研修を行っています。今後も常日頃から職員間で話せる場を設けて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居の際の契約は、全て読み合わせを行い、家族が理解し易いように説明し、不安なく入居できるように対応をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を、2ヶ月に一度開催し、家族や外部の包括・自治会などの意見を聞き、解決に努めています。また 面会時も家族とコミュニケーションを図り、要望・意見等を聞き解決に努めています。	家族が来所の時は、事務室で利用者の健康状態などの情報提供と意見交換をしています。運営推進会議の場や家族懇談会でも意見交換しています。苦情受付処理簿があり、受け付けた意見と対応、反省点をまとめて職員に周知を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議を実施しています。業務の会議だけではなく、スタッフの意見・要望等を聞き、風通しの良い職場作りに専念しております。	毎月のスタッフ会議や日常的な活動の中で意見を聞いています。職員体制についての意見交換や新しい入居者の情報提供も行われています。居室担当や発注担当が決められ、意見を反映しやすくしています。自己評価は管理者を中心として職員とまとめています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善については、給料水準の見直しを行なっています。また、個々のレベルにあった仕事をお願いし、やりがいがあるように努めて下ります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の社内研修を行い、個々のスキルアップに努めています。また本社の研修センターでの、新人導入研修にも新人は参加して頂き、当法人の仕組みや、介護の勉強を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月1回のエリア長会議の実施及び3ヶ月に一度の施設会議を設け、施設間同士で情報共有し問題点を掲げ解決しています。職員同士の研修は施設研修を兼ねて交流を図り、スキルアップに繋げて行く予定です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に十分なアセスメントを取りプランを作りスタッフ全員に把握して頂き、入居後に安全に安心して生活して頂く様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人の要望・家族の思い・困っている事を十分に把握し本人がどの様に生活を望んでいるか、また家族が何を望んでいるかを考えながら、関係を築いて行きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	個人情報職員全てが把握し、本人・家族が何を望んでいるかを早い段階で見極め計画を立てて行きます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿った、個人を尊重し尊厳を保ちながら生活をしてほしい。そのためには、本人の趣味・性格等を把握し、本人が退屈しないよう、能力のある方は能力を生かして頂き、その人の要望をできるだけ叶えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にコミュニケーションを図り、又家族へのお便りを活用しながら、情報を家族と共に共有し、家族の要望・利用者様の要望を確認しながら支えて行きます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に関しては、時間を決め対応しています。(9:00~18:00)しかし、仕事等で決められた時間に面会できないのであれば、連絡さえ頂ければ特に問題はありませぬ。外泊・外出も同様です。	知人や家族が訪ねてくると、職員は談笑の場に入るようにしています。家への電話の取次ぎもしています。利用者の様子は毎月家族への便りに笑顔の写真を載せ、元気な様子を発信しています。家族と一緒に家に帰ったり、墓まいりもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で行なうレク【風船バレー・歌】などは、全員に声掛をし本人の要望を聞きながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されても、お客様から相談があった場合は対応しております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の要望を踏まえて行なっております。【ヤクルト・牛乳・囲碁等】また難しい要望に関しては、家族と十分に話し合いをし、出来るだけ要望に答えるようにしています。	施設などにいた時の生活状況について、十分な把握に努めています。最初の数ヶ月は健康と安全に気を付けながら、利用者本位のサービス向上に努めています。聞き取りが困難な場合は家族から説明を受けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人の経歴をファイルし、スタッフ全員で情報を共有し、今後のサービスの向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身状態は、日々のバイタル測定を実施し健康状態の把握。、過ごし方については個人記録・送りノートを活用しスタッフ全員で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	主治医・看護師・ケアマネ・介護師等で様々な意見を反映しケアプランを作成しています。	入所時の基本情報をもとに最初のケアプランが作られ、毎日の変化・気づき、できる事・できないこと、支援してほしいことを日々評価し、記録しています。申し送り日誌で全員の様子をまとめ、さらに短期と長期の評価で次のケアプランにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子に関しては、ケース記録・申し送りノート・業務日誌等から把握し、会議で情報を把握し会議で情報を共有しケアプランを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	往診日以外でも、体調不良の時は必要に応じて受診対応もしております。また、。時間外の面会も許可しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の情報に関しては、自治会の回覧板を回して頂き、行司等には積極的に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的に入居の際は、当往診クリニックの詳細を説明し要望があればクリニックとの契約を交わして頂いて降ります。月2回の往診です。往診日以外の体調不良に関しては、当施設で対応する場合も有ります。また体調不良の際は必ず家族に連絡をしております。	受診医の選択は、本人・家族の希望を大切にしています。ほとんどの利用者は事業所の協力医の月2回の往診を受けています。受診は、看護師が各利用者の現況を「看護記録表」にまとめ、これに基づいて往診医に説明し、適切に受診ができる仕組みとなっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師への申し送りノートを作成し、情報の共有をした中で、利用者様の健康チェックを行っております。また、看護師から主治医へ情報を報告し利用者様の健康管理を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、病院関係者・ご家族と連絡を密に取り情報を把握しています。また、定期的に見舞いを実施しております。退院時には立会い、今後のケアの注意点を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、契約時に当施設の利用者様の状態が重度化した場合の対応に関する指針と見取りに関する指針を説明し、早期に主治医と家族と連携を取りながら対応するように心がけています。	昨年度、家族などの意向を基に重度の利用者を看取っています。看護師が非常勤職員として勤務しています。看護師及び医師とは、24時間連携可能となっています。重度化した時などのあり方について、本人・家族などと各段階で話し合い、共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応に関しては、マニュアルを作成し、常に見える所に掲示しております。また、定期的に研修を行い、周知徹底しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のために、食料・水の備蓄をしています。避難訓練に関しては、年2回実施し、夜間・昼間を想定して行っていますが、地震等の訓練は行っていないので、今後行なう予定です。	夜間を想定した訓練では、利用者を安全な場所へ速やかに避難させるなどの内容で訓練を行っています。非常用食料・飲料水、及びオムツなどの生活物資を備蓄しています。「火の元等チェック表」で、ガスや電気機器などを毎日点検しています。	非常用食料などの備蓄がありますが、さらに非常時に必要な生活必需品などについても検討し、備蓄していくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	等施設の理念である、【共同生活の中で、その人らしい部分を尊重し、安全・安心・清潔をベースに笑顔のある生活】を常に考え支援しています。	人格の尊重とプライバシーについて、所内研修やミーティングなどを通して職員の理解を深めています。居室の表札は、全室一律ではなく、本人などの意向を取入れた形で掲示しています。利用者の呼称についても意向にもとづいて声掛けしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、お手伝い・散歩・レクへの参加・お昼寝等は、ご本人の意志を尊重しながら決めて頂くよう支援しております。無理維持はしていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の日々の状態を把握しながら、利用者様の目線に合わせ、利用者様のペースで何をしたいか見極め支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月ご本人に確認し、カット・パーマ・ヘアダイ等を決めて頂き、毎月訪問理美容を実施しております。洋服も選べる人は自分の好みで着替えて頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日のメニューを掲示し、利用者様がメニューを確認出来るようにしています。食事の準備や片付けに関しては、出来る人、出来ない人が要するため利用者様の能力によってその都度対応しています。	食材は食品業者から配送されています。食材の買い出しの時間や、調理時間の効率化によって、その分の時間を利用者のケアにあてています。出前をとったり、外食を行い、楽しく食事をする機会を作っています。食中毒防止にも力を入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後、水分量・摂取量に関しては日々チェックし記録に記入しています。水分・食事の少ない方に関しては様々な方法で摂取して頂く様に工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの誘導をしております。自力で出来ない方は職員の支援の下ケアをしております。訪問歯科に関しては、月2回口腔内のチェックを定期的に行なっております		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツで無い方は、失敗が重なっても、サイクルを把握し誘導し極力現状維持を考えています。安易に紙パンツに替えないよう支援しています。	日中は、全員が紙パンツを、また夜間は、数名がオムツを使用しています。サインや気配を感じとり、トイレで排泄できるように支援しています。失禁の時は、シャワーボトルや風呂場のシャワーで洗浄するなど、清潔の保持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々水分摂取の確認しています。また要望があればヨーグルト・バナナ・ヤクルト・を提供しています。それでも改善出来ないであれば、医師・看護師と相談したいおうしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日を基本的には決めております。しかし本人の体調や・要望・拒否等によっては曜日が変わる場合もあります。また入浴前には必ずバイタルチェックをしております。	脱衣場や風呂場は、ヒートショックが起きないようにエアコンで温度調節して配慮しています。入浴を嫌がる利用者には「痒いところがありますよ。」などと根気よく促しています。入浴前にバイタルチェックをし、事故の起きないように気を付けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転しない様、適度なお昼寝をして頂くように支援をしています。また夜間安眠していただく様に、定期巡視を行い安全・安心の確保をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	予約時は、必ず二人でチェックを行い服薬者は必ず最後まで飲んだかを確認しています。チェック者は薬の名前ご本人に飲ませているかを目で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いが好きな方には、洗濯物のたたむ・洗濯を干す・食器を拭く等の様々なお手伝いをして頂いております。ご本人の意志を尊重しながら、気分転換出来るように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩に関して、お天気と相談しながら行っています。時には天気の良い日にはドライブにも出かけております。	天気の良い日は、職員が同行して散歩に出掛けています。周辺の農地や緑が広がっているところを散策し、景観を楽しんでいます。事業所は広い庭があり、花や植木、野菜を植えて観賞出来るようにしています。またテラスもあり、行事などに利用しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、お金は必要有りませんので持つてはいません。しかし、ご要望のある利用者様は家族確認の基、持つている方もいます。ご希望があれば、買い物にも行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設への本人宛の郵便物が届いた場合は、速やかに本人に渡しております。また、ご本人から家族への電話の要望が有った場合は、ご家族確認の基電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、緑が生えるように観葉植物や植木・熱帯魚を置いています。また、フロアーには、利用者様の作品や出かけた時の写真を貼ってあります。	エントランスホールに観葉植物や熱帯魚が泳ぐ水槽などを置いてアメニティを演出しています。リビングは、広く明るく、利用者がソファやテーブル席でゆったりとくつろげる環境です。フロアの壁面に利用者の作品や、行事などの時の写真を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外に庭を造り日光欲の出来るように、レイアウトしています。天気の良い日には外でお茶を飲みながら会話を楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のレイアウトは、家族と相談しながら本人が安全に過ごせるよう決めています。また、馴染みの物や写真を持ち込んで頂いています。しかし、危険な物に関しては家族了解の基、持込を断っております。	今までの生活を変えないように寝具やタンスなどは、馴染みの物を持ち込んでもらっています。また、家族の写真や好みの物を置き、利用者が落ち着いて過ごせるようにしています。シーツ交換などは、定期・適宜に交換し、清潔の保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアー内・お風呂・トイレ等あらゆる所に手すりを設置しています。案内板も設置しています。場所が理解出来ない利用者様にはその都度誘導してします。		

事業所名	花物語 おんだ
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域と一緒に施設作りを考えるために、地域の考え等を踏まえ、また施設理念を踏まえたうえで、「その人らしく生きる」「意志を尊重し」「あたたかい心を持ち接する」この様な考えを常に持ち、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	恩田自治会主催や包括主催の行事（どんど焼き・盆踊り等）に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オープン当初は、施設見学会・健康祭りを、地域住民を招き交流をして来ましたが、その後は開催はしていません。今後に関しては、地域を招いての行事を考えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむ2ヶ月に一度開催し、利用者の状況・事故状況・行事等を報告しています。報告後、家族・包括・自治会長等より意見を頂きサービス		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括の職員・自治会長・民生の方々に関しては運営推進会議に参加して頂き、常に情報を共有し意見交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設理念で唱えているように、個人を尊重し尊厳が保たれよう生活をされています。事業所所内で研修も行っています。施錠に関しては、今までは事務所内に職員が居る時は、玄関の施錠はしてなかったのですが、先般の障害者施設の殺傷事件より施錠を行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しては、日々のミーティングで虐待防止の事を伝えています。また研修も行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては、年1回研修を行っています。今後も常日頃から職員間で話せる場を設けて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居の際の契約は、全て読み合わせを行い、家族が理解し易いように説明し、不安なく入居できるように対応をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を、2ヶ月に一度開催し、家族や外部の包括・自治会などの意見を聞き、解決に努めています。また 面会時も家族とコミュニケーションを図り、要望・意見等を聞き解決に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議を実施しています。業務の会議だけではなく、スタッフの意見・要望等を聞き、風通しの良い職場作りに専念しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善については、給料水準の見直しを行なっています。また、個々のレベルにあった仕事をお願いし、やりがいがあるように努めて下ります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の社内研修を行い、個々のスキルアップに努めています。また本社の研修センターでの、新人導入研修にも新人は参加して頂き、当法人の仕組みや、介護の勉強を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月1回のエリア長会議の実施及び3ヶ月に一度の施設会議を設け、施設間同士で情報共有し問題点を掲げ解決しています。職員同士の研修は施設研修を兼ねて交流を図り、スキルアップに繋げて行く予定です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に十分なアセスメントを取りプランを作りスタッフ全員に把握して頂き、入居後に安全に安心して生活して頂く様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人の要望・家族の思い・困っている事を十分に把握し本人がどの様に生活を望んでいるか、また家族が何を望んでいるかを考えながら、関係を築いて行きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	個人情報職員全てが把握し、本人・家族が何を望んでいるかを早い段階で見極め計画を立てて行きます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿った、個人を尊重し尊厳を保ちながら生活をしてほしい。そのためには、本人の趣味・性格等を把握し、本人が退屈しないよう、能力のある方は能力を生かして頂き、その人の要望をできるだけ叶えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にコミュニケーションを図り、又家族へのお便りを活用しながら、情報を家族と共に共有し、家族の要望・利用者様の要望を確認しながら支えて行きます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に関しては、時間を決め対応しています。(9:00~18:00)しかし、仕事等で決められた時間に面会できないのであれば、連絡さえ頂ければ特に問題はありませぬ。外泊・外出も同様です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で行なうレク【風船パレー・歌】などは、全員に声掛けをし本人の要望を聞きながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されても、お客様から相談があった場合は対応しております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の要望を踏まえて行なっております。【ヤクルト・牛乳・囲碁等】また難しい要望に関しては、家族と十分に話し合いをし、出来るだけ要望に答えるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人の経歴をファイルし、スタッフ全員で情報を共有し、今後のサービスの向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身状態は、日々のバイタル測定を実施し健康状態の把握。、過ごし方については個人記録・送りノートを活用しスタッフ全員で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	主治医・看護師・ケアマネ・介護師等で様々な意見を反映しケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子に関しては、ケース記録・申し送りノート・業務日誌等から把握し、会議で情報を把握し会議で情報を共有しケアプランを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	往診日以外でも、体調不良の時は必要に応じて受診対応もしております。また、。時間外の面会も許可しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の情報に関しては、自治会の回覧板を回して頂き、行司等には積極的に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的に入居の際は、当往診クリニックの詳細を説明し要望があればクリニックとの契約を交わして頂いて降ります。月2回の往診です。往診日以外の体調不良に関しては、当施設で対応する場合も有ります。また体調不良の際は必ず家族に連絡をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師への申し送りノートを作成し、情報の共有をした中で、利用者様の健康チェックを行なっております。また、看護師から主治医へ情報を報告し利用者様の健康管理を行なっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、病院関係者・ご家族と連絡を密に取り情報を把握しています。また、定期的に見舞いを実施しております。退院時には立会い、今後のケアの注意点を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、契約時に当施設の利用者様の状態が重度化した場合の対応に関する指針と見取りに関する指針を説明し、早期に主治医と家族と連携を取りながら対応するように心がけています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応に関しては、マニュアルを作成し、常に見える所に掲示しております。また、定期的研修を行い、周知徹底しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のために、食料・水の備蓄をしています。避難訓練に関しては、年2回実施し、夜間・昼間を想定して行なっていますが、地震等の訓練は行なっていないので、今後行なう予定です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	等施設の理念である、【共同生活の中で、その人らしい部分を尊重し、安全・安心・清潔をベースに笑顔のある生活】を常に考え支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、お手伝い・散歩・レクへの参加・お昼寝等は、ご本人の意志を尊重しながら決めて頂くよう支援しております。無理維持はしていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の日々の状態を把握しながら、利用者様の目線に合わせ、利用者様のペースで何をしたいか見極め支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月ご本人に確認し、カット・パーマ・ヘアダイ等を決めて頂き、毎月訪問理美容を実施しております。洋服も選べる人は自分の好みで着替えて頂いております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日のメニューを掲示し、利用者様がメニューを確認出来るようにしています。食事の準備や片付けに関しては、出来る人、出来ない人が要するため利用者様の能力によってその都度対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後、水分量・摂取量に関しては日々チェックし記録に記入しています。水分・食事の少ない方に関しては様々な方法で摂取して頂く様に工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの誘導をしています。自力で出来ない方は職員の支援の下ケアをしています。訪問歯科に関しては、月2回口腔内のチェックを定期的に行なっております		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツで無い方は、失敗が重なっても、サイクルを把握し誘導し極力現状維持を考えています。安易に紙パンツに替えないよう支援してます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々水分摂取の確認しています。また要望があればヨーグルト・バナナ・ヤクルト・を提供しています。それでも改善出来ないであれば、医師・看護師と相談したいおうしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日を基本的には決めております。しかし本人の体調や・要望・拒否等によっては曜日が変わる場合もあります。また入浴前には必ずバイタルチェックをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転しない様、適度なお昼寝をして頂くように支援をしています。また夜間安眠していただく様に、定期巡視を行い安全・安心の確保をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	予約時は、必ず二人でチェックを行い服薬者は必ず最後まで飲んだかを確認しています。チェック者は薬の名前ご本人に飲ませているかを目で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いが好きな方には、洗濯物のたむ・洗濯を干す・食器を拭く等の様々なお手伝いをして頂いております。ご本人の意志を尊重しながら、気分転換出来るように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩に関して、お天気と相談しながら行っています。時には天気の良い日にはドライブにも出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、お金は必要有りませんので持つてはいません。しかし、ご要望のある利用者様は家族確認の基、持つている方もいます。ご希望があれば、買い物にも行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設への本人宛の郵便物が届いた場合は、速やかに本人に渡しております。また、ご本人から家族への電話の要望が有った場合は、ご家族確認の基電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、緑が生えるように観葉植物や植木・熱帯魚を置いています。また、フロアーには、利用者様の作品や出かけた時の写真を貼ってあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外に庭を造り日光欲の出来るように、レイアウトしています。天気の良い日には外でお茶を飲みながら会話を楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のレイアウトは、家族と相談しながら本人が安全に過ごせるよう決めています。また、馴染みの物や写真を持ち込んで頂いています。しかし、危険な物に関しては家族了解の基、持込を断っております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアー内・お風呂・トイレ等あらゆる所に手すりを設置しています。案内板も設置しています。場所が理解出来ない利用者様にはその都度誘導してします。		

平成28年度

## 目標達成計画

事業所名 花物語 おんだ

作成日：平成 29 年 3 月 7 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会との繋がりが、少し不足している状況です。自治会主催の盆踊りなど場所等の問題(歩いてはいけない場所)で未だに全員は参加していませんので今後は参加を考えて生きます。	必ず自治会の行事には、参加します。夏の盆おどりや秋の恩田町の収穫祭などに参加します。参加します。	自治会の回覧板などから情報を見つけ出し参加します。また、2ヶ月に一度の運営会議に自治会長さんが参加するため会長さんより情報収集する。	12ヶ月
2	29	ボランティアの活用が有効にされてない。時々ボランティアは活用はしていますが、定期的に活用し、利用者様に楽しさを与えたいと思います。	今後は、最低でも月に一度位はボランティアを招いて、利用者様の笑顔が見れるようにして行きます。	地域のコミュニティセンター等に登録をしたり、地域の包括に足を運びボランティアさんを紹介して頂きます。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月